

伝統的な言語文化に関する事項



●子どもたちの日常生活、言語生活と、日本の伝統的な言語文化とを結びつけられるように工夫しました。

●音読・暗唱を学習の中心に据えた取り立て教材と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材の中で取り上げた関連教材とを設定し、さまざまな場面で、伝統的な言語文化に親しめるようにしました。

音読・暗唱を学習の中心に据えた取り立て教材

- 3年 声に出して読もう — 俳句
- 4年 声に出して読もう — 短歌
- 5年 声に出して読もう — 外国の詩
- 6年 声に出して読もう — 漢文

4年「声に出して読もう — 短歌」

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で書かれています。
声に出して、言葉の調子をよみましょう。

夏、の野にかまひの立つ見えてかへりすれば月かたよめ

ひさかたの光のときと暮の日にし心なく比の歌るほど

いにしへの我が都の八雲くぐれば丸まに

「短歌集」

漢文は、中国の古文です。
昔から、漢文と日本語とを交えて書かれたものがあつた。
次に示す「漢文」は、上から右へ読みます。

夏、の野にかまひの立つ見えてかへりすれば月かたよめ

ひさかたの光のときと暮の日にし心なく比の歌るほど

いにしへの我が都の八雲くぐれば丸まに

「漢文」

6年「声に出して読もう — 漢文」

漢文は、中国の古文です。
昔から、漢文と日本語とを交えて書かれたものがあつた。
次に示す「漢文」は、上から右へ読みます。

夏、の野にかまひの立つ見えてかへりすれば月かたよめ

ひさかたの光のときと暮の日にし心なく比の歌るほど

いにしへの我が都の八雲くぐれば丸まに

「漢文」

漢文は、中国の古文です。
昔から、漢文と日本語とを交えて書かれたものがあつた。
次に示す「漢文」は、上から右へ読みます。

夏、の野にかまひの立つ見えてかへりすれば月かたよめ

ひさかたの光のときと暮の日にし心なく比の歌るほど

いにしへの我が都の八雲くぐれば丸まに

「漢文」

6年「声に出して読もう — 漢文」

学びを広げる



まんじゅうこわい 四角田法太郎の創作童話

「まんじゅうこわい」は、四角田法太郎の創作童話です。まんじゅう屋の主人が、まんじゅうをこわい顔で食べると、まんじゅうがこわい顔になるというお話です。

まんじゅう屋の主人は、まんじゅうをこわい顔で食べると、まんじゅうがこわい顔になるというお話です。

4年「まんじゅうこわい」



竹取物語 竹取の伝説

竹取の伝説は、竹取の姫が竹の葉から生まれたというお話です。竹取の姫は、竹の葉から生まれたというお話です。

竹取の姫は、竹の葉から生まれたというお話です。

3年「竹取物語」

各領域の学習との関連教材

- 1年** いなばの白ウサギ **【読む】**
- 2年** かさこじょう **【読む】**
- 3年** カルタを作ろう **【書く】**
- 4年** 落語 じゅげむ **【話す・聞く】**
 故事成語の物語 **【書く】**
- 5年** 狂言 しびり **【話す・聞く】**
 雪・土 **【読む】**
 句会を楽しむ **【書く】**
- 6年** 自由な発想で一随筆 **【書く】**
 短歌を作る **【書く】**

日本の神話を読む。

日本の民話を読む。

カルタ作りを通して、百人一首・いろは歌・ことわざにふれる。

言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して、分担して落語を読む。

故事成語の由来をもとに、物語を書く。

言葉遣いの工夫やおもしろさを意識して、分担して狂言を読む。

文語調で書かれた詩を、声に出して読む。

俳句を作ったり、読んだりして、表現の効果を確かめる。

随筆を書くことを通して、枕草子・徒然草にふれる。

短歌を作ったり、読んだりして、表現の効果を確かめる。



6年「自由な発想で一随筆」

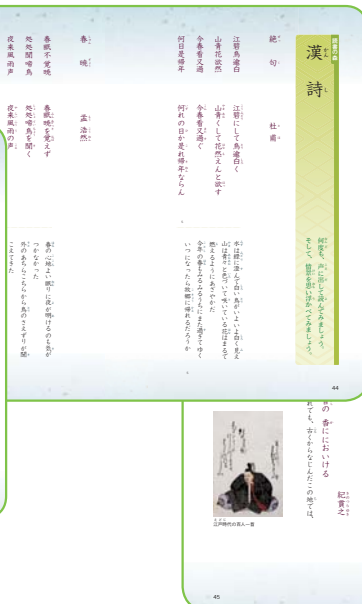


5年「狂言 しびり」

5年「漢詩」



6年「おくのほそ道」



4年「百人一首」

